

【2023年8月28日 毎日新聞朝刊】

オンラインの「IBT試験」導入



時事問題への理解度を測る「ニュース時事能力検定試験」（NPO法人日本ニュース時事能力検定協会、毎日新聞社など主催）は、インターネットを利用して受けられる「IBT試験」

を6月に実施した検定から導入した。

IBT試験では、受検者がパソコンなどから専用ウェブサイトアクセスして好きな場所で受検できる。ニュース検定は紙の問題冊子とマークシートの解答用紙を中心に実施してきたが、マークシート方式かIBTかを選べるようになった。

大学や高校などで学生らが集団でIBT試験を

受ける場合は、学校のインターネットやパソコン設備を利用することもできる。自宅で個人受検する場合も、試験監督が配置され、カンニングや問題の漏えいがないよう、パソコンのカメラなどを通してチェックが行われる。

東洋大白山キャンパス（東京都文京区）では6月、社会学部メディアコミュニケーション学科の学生が「2級」と「準2級」をIBTで受検した。学生たちは問題が表示されたパソコンを前に、真剣な様子で取り組んでいた。2級を受けた3年の学生(21)は「未解答の設問を一覧で確認できる画面があり、時間を有効に使えた」。別の学生(20)は「ニュース検定をきっかけに普段はあまり関心がない分野についても学ぶことができた。試験は難しかった」と振り返った。

東洋大の大谷奈緒子教授（メディアコミュニケ



ニュース検定のIBT試験に臨む学生。東洋大文京区白山キャンパスで

ーション論）は「大学の設備を使うと、学生が個々のネット環境を心配することなく、同じ環境で受検できる。一方、新型コロナウイルスのような感染症の流行時は、自宅などで受検できる安心感も大きい」と語った。【塩田彩、写真も】

